

環境報告書
Environmental Report
2011
対象期間;2010.4-2011.3



会社概要 (2011年3月31日現在)

【会社概要】

社名 西川ゴム工業株式会社 (NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.)
 所在地 千733-8510 広島市西区三篠町二丁目2番8号
 代表者 取締役社長 西川 正洋
 設立 1949年4月
 資本金 3,364百万円
 従業員数 1,266名

【事業内容】

自動車用部品
 一般産業資材
 ゴム・樹脂シール製品, 内外装製品等
 住宅関連製品, 土木関連製品, 化粧用パフ, 建機用ゴム製品, 医療用ゴム製品等

【国内拠点】

工場
 営業所
 白木工場, 吉田工場, 安佐工場, 三原工場
 東京営業所, 宇都宮出張所, 浜松営業所, 名古屋営業所, 大阪営業所, 広島営業所, 山口出張所

国内関係会社
 西川物産(株), 西和工業(株), (株)西川ビッグオーシャン, (株)西川ゴム山口, (株)西和物流
 (株)西川リビング, (株)西川ビッグウェル, 西川デザインテクノ(株), ダイキョーニシカワ(株)

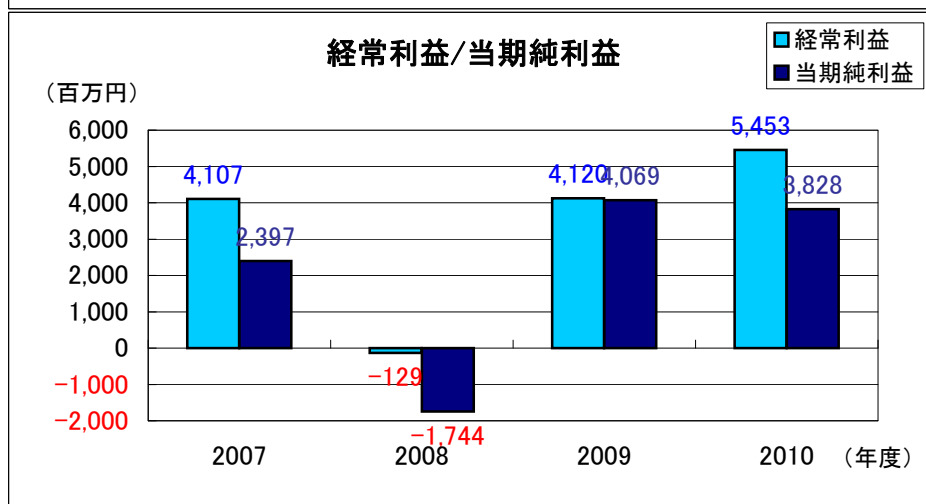
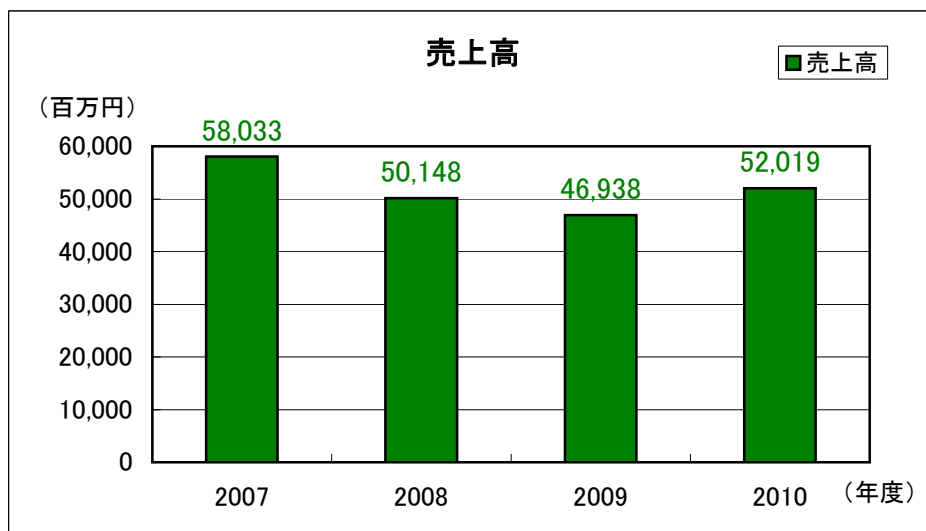
【海外拠点】

アメリカ Nishikawa Cooper LLC
 Nishikawa of America Inc.
 タイ Nishikawa Tachaplalert Cooper Ltd.
 (※2011年5月にNishikawa Tachaplalert Rubber Co Ltd. より社名変更)

中国 上海西川密封件有限公司
 広州西川密封件有限公司
 西川橡胶(上海)有限公司
 西川物産코리아(株)

韓国 Cooper Standard Automotive Sealing de Mexico S.A. de C.V.
 インド Anand Nishikawa Co., Ltd.
 イギリス Nishikawa Rubber Co., Ltd. Europe Branch

【連結業績の推移】



環境マネジメント

【環境方針】

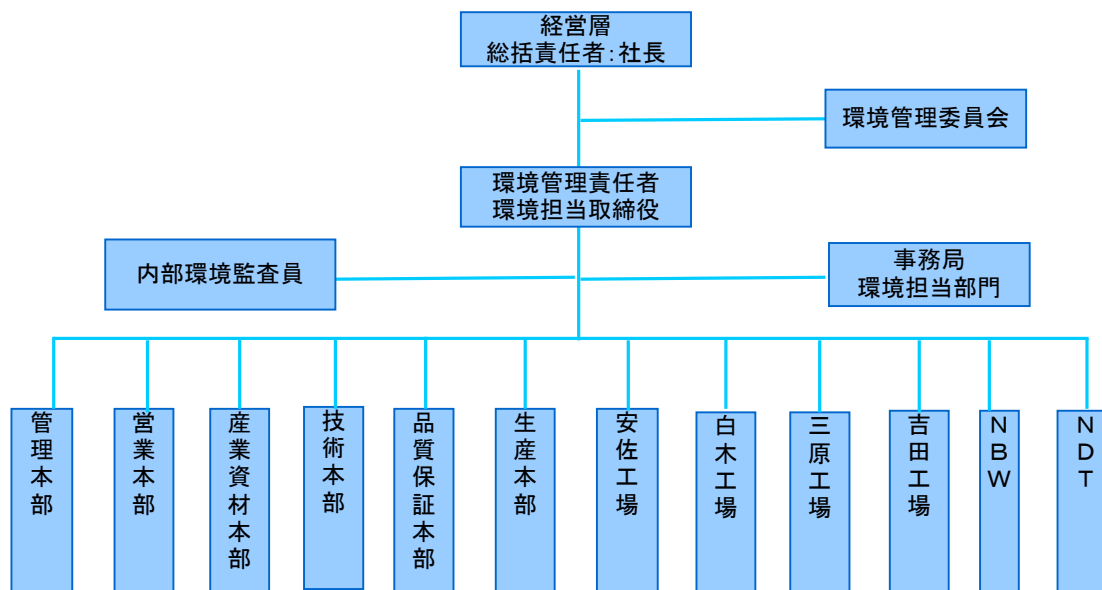
<基本理念>

当社は、環境保全を経営の重要課題として、社是(正道, 和, 独創, 安全)の精神で、製品の開発・生産・販売の全ての段階において「地球にやさしい事業活動」をグループ全体で取り組みます。

<行動指針>

1. 法令遵守
環境関連の関係法規制等、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守します。
2. 環境に配慮したモノづくり
開発・設計から廃棄までの製品のライフサイクルにおいて、環境負荷物質の低減に取り組みます。
3. 環境負荷の低減
事業活動において、省エネルギー・省資源・リサイクル・廃棄物の削減、有害化学物質の使用抑制に取り組み、その継続的改善に努めます。
4. 社内啓発活動
全従業員の環境に関する法律遵守及び環境への意識向上を図るため、環境教育を継続的に実施し、全社的な環境保全活動を推進します。

【環境管理体制】



● ISO14001認証取得状況

サイト名	取得時期	有効期限	審査機関
西川ゴム工業(株) (株)西川ビッグウェル 西川デザインテクノ(株)	2000年12月	2012年9月	DET NORSKE VERITAS

※2009年9月に全社統合(株)西川ビッグウェル、西川デザインテクノ(株)を含む)し、一番古い安佐工場の認証を継承しました。

● 関係会社におけるISO14001認証取得状況

サイト名	取得時期	有効期限	審査機関
(株)西川ゴム山口	2007年3月	2013年2月	AJA-Registrars Ltd.
西川物産(株)	2006年1月	2011年12月	
西和工業(株)	2006年4月	2013年7月	
(株)西川ビッグオーシャン	2006年4月	2012年4月	

環境保全の取り組み

西川ゴム工業の環境側面をふまえて、環境目的・目標を設定し活動しています。

● 2010年度目標と結果並びに2011年度目標

No.	取組み項目	2010年度目標	2010年度実績		2011年度目標
1	廃棄物のリサイクル推進 (P.5 参照)	産業廃棄物のリサイクル率 99%以上	産業廃棄物の リサイクル率 99.9%	○	—
2	CO ₂ 排出量の削減 (P.7 参照)	CO ₂ 排出量 44,000t	CO ₂ 排出量 47,818t	×	CO ₂ 排出量 47,958t
3	CO ₂ 原単位の削減 (排出量/売上高) (P.7 参照)	2008年度比 2%削減	2008年度比 3.5%削減	○	2010年度比 2%削減
4	環境負荷物質(SOC)の管理 (P.10 参照)	SOC6物質分析データ把握	SOC6物質分析データ 把握	○	—
5	製品含有化学物質管理シス テム構築(REACH規制対応)	環境負荷物質管理規程による 環境負荷物質調査把握	環境負荷物質管理規程 による環境負荷物質 調査把握 調査完了	○	含有化学物質調査把握
6	NRCグループでの環境活動	(グローバルでの活動項目) ・CO ₂ 排出量 ・廃棄物リサイクル率 ・環境負荷物質管理規定に よる化学物質調査把握	グローバルで左記項目 について目標を設定し、 活動開始	○	—
7	マテリアルリサイクルの推進	—	—		2012年度までに技術確立
8	全社緑化活動	—	—		緑豊かな事業所の推進

● 中期環境目標

No.	目標項目	2011年度	2012年度	2013年度
1	CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量 47,958t	CO ₂ 排出量 46,500t	CO ₂ 排出量 46,300t
2	CO ₂ 原単位の削減	2010年度比 2%削減	2010年度比 3%削減	2010年度比 4%削減
3	製品含有化学物質管理シス テムの構築 (REACH規制対応)	含有化学物質調査把握	含有化学物質調査把握	含有化学物質調査把握
4	マテリアルリサイクルの推進	2012年度までに技術確立	2012年度までに技術確立	実用化
5	全社緑化活動	緑豊かな事業所の推進	緑豊かな事業所の推進	緑豊かな事業所の推進

■世界最軽量クラスのドアインナーシール 質量比25%減を実現

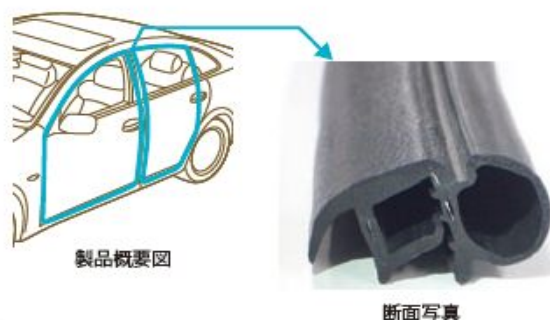
ドアインナーシールは、自動車ボディ側ドア開口縁に取り付けられるウエザーストリップで、ドア側に取り付けられるドアアウターシールと共に、車外からの水や音の侵入を防ぎ車内空間を快適に保つための重要なシール部品です。また同部品はボディ端部周辺を覆う内装部品としての一面も合わせ持っています。

西川ゴム工業は、省資源やCO₂削減など地球環境につながる自動車の軽量化に寄与すべく、このドアインナーシールにおいて、従来仕様品との質量比25%減(当社比)という世界最軽量クラス品(当社調査)を開発・製品化いたしました。

ポイントとなる技術は、車体への保持力やシール性能を維持しつつ軽量化を図った点にあります。

当社固有の発泡技術 微細セル化発泡によりゴムの強度低下を抑え、加えてインサートメタルを極限まで薄肉化することでこれらを克服しました。

同部品は今年初旬から量産車にて採用開始しております。



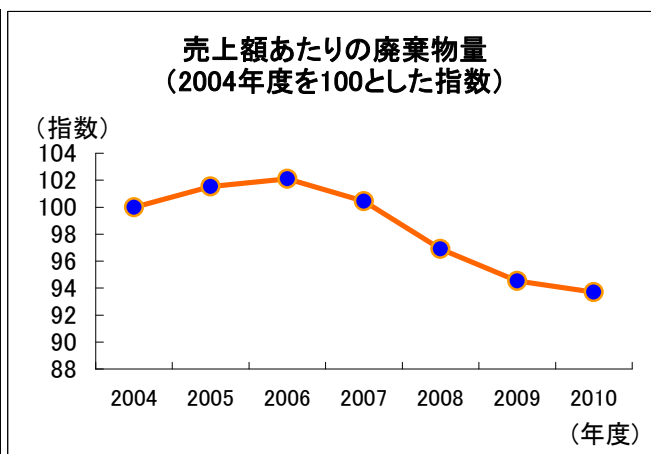
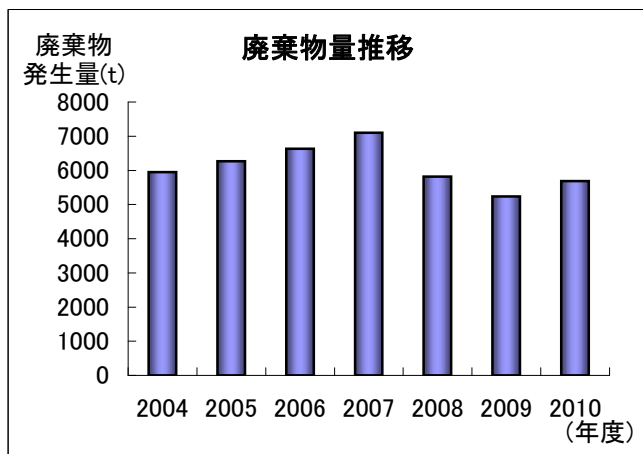
今後も発泡技術等の深耕・進化によりさらなる軽量化、さらなる環境貢献を図っていく所存です。

廃棄物に関する取り組み

● 廃棄物量の削減

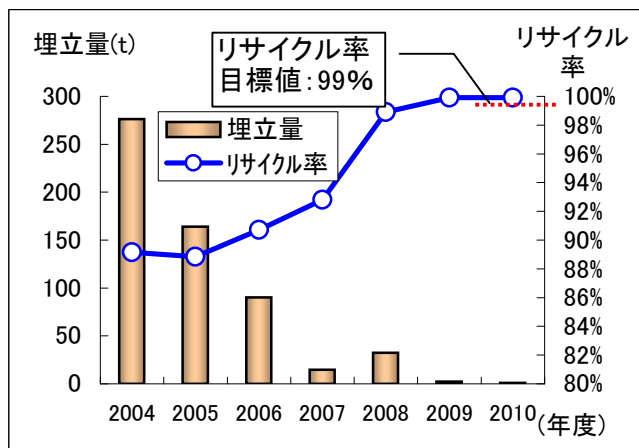
リサイクル率の向上と合わせて廃棄物量の削減にも取り組んでいます。生産工程での歩留向上や不良率の低減により、売上額あたりの廃棄物量(原単位)も2006年度以降改善が進んでいます。

2010年度はエコカー減税などによる自動車産業の好調から受注が大きく回復したため、廃棄物量は増加に転じていますが、売上額あたりの廃棄物量は前年度より改善することができました。



● リサイクル率の向上

埋立量・リサイクル率推移表



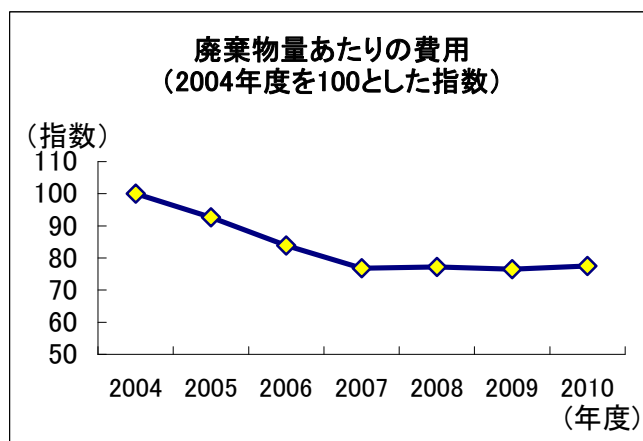
2009年度、目標としてきたリサイクル率99%を達成しました。
2010年度はリサイクル活動の維持により引き続き99.9%のリサイクル率となり、目標を達成しました。

*1埋立量: 直接埋立される廃棄物量

*2リサイクル率: 埋立、単純焼却以外の廃棄物量/廃棄物の総量

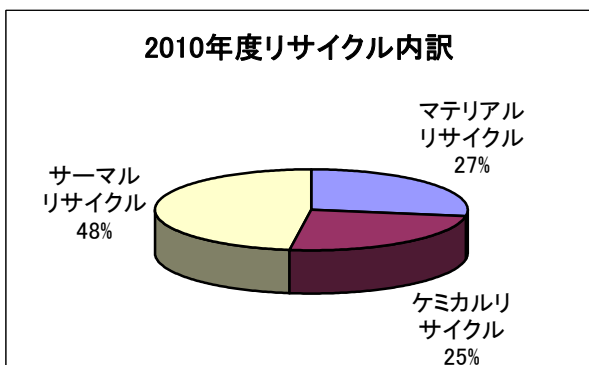
● リサイクル費用の削減

廃棄物総量の削減、リサイクル率の向上とあわせ、費用削減にも取り組んでいます。リサイクル用途としての処理方法の検討や処理ルートの工夫、新規委託業者の検討などの活動が定着し、重量あたりの費用は2007年以降安定して推移しています。



● リサイクルの内容について

リサイクルの内訳は、27%がマテリアルリサイクル、25%がケミカルリサイクル、そして残りの48%がサーマルリサイクルです。



【マテリアルリサイクル】

ゴムの廃材を利用したゴム板を作成し、一部の自動車のガソリタンク緩衝材や住宅の防音床として使用されています。



ガソリタンク タンク用緩衝材

その他、ゴム廃材を粉砕したゴムチップは人工芝用資材として使用されています。



【ケミカルリサイクル】

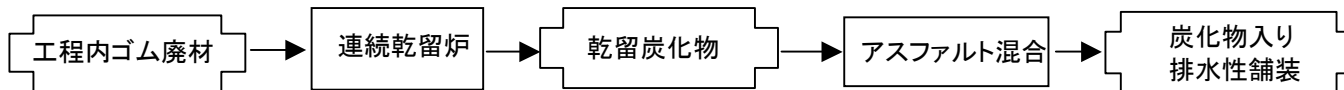
ページ下の「廃棄物の有効利用」にある乾留炉にて廃ゴムを芯金と炭化物に分け、それぞれ売却しています。

【サーマルリサイクル】

RPF (Refuse Paper & Plastic Fuel の略称で固形燃料) の原料、またセメント会社の原燃料として利用されています。

● 廃棄物の有効利用

工程内ゴム廃材を炭化させたものとアスファルトを組み合わせることにより、丈夫で安価な排水性アスファルト混合物を作ることに成功しました。



連続乾留炉

乾留技術の詳細については

<http://www.nishikawa-rbr.co.jp/environment/632.htm>
をご参照ください。

炭化物をアスファルトへ添加する技術の詳細については

<http://www.nishikawa-rbr.co.jp/environment/631.htm>
をご参照下さい。

● グループ会社の廃棄物削減事例

【タイ NTR: ゴム屑のリサイクル】

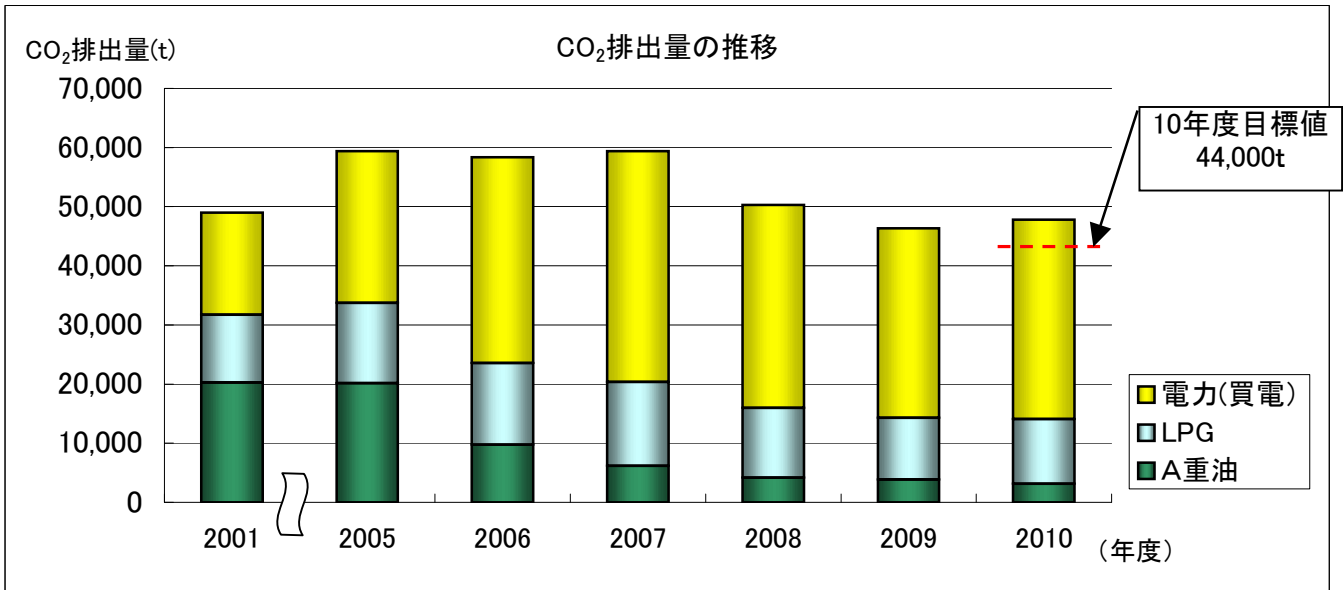
NTRではゴム屑を代替燃料として処理できる業者の開拓を進め、2010年から全てのゴム屑を代替燃料とすることにより、リサイクル率の改善(リサイクル率2009年65%→2010年93%)を達成しました。

【中国 SNS: 納入梱包材のリサイクル】

SNS(上海西川密封件有限公司)では、原材料を納入する際の梱包材を取引先と協同で、納入～回収～再利用化を実施することにより、廃棄物を削減(リサイクル率2009年88%→2010年92%)しました。

CO₂排出量削減の取り組み

● CO₂排出量の推移



CO₂換算係数は、下記の値を使用しました。

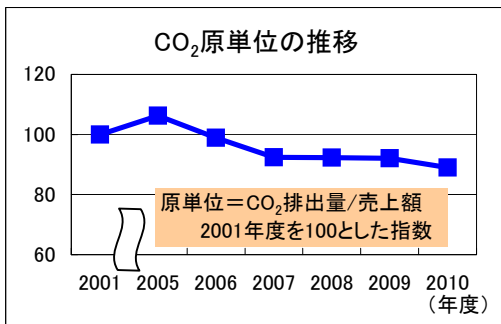
電力: 0.555kgCO₂/kWh

A重油: 2.71kgCO₂/L

LPG: 3.00kgCO₂/kg

出典: 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧 (環境省)

● 省エネ活動



CO₂排出量削減, 原単位改善に向けて, 生産拠点と本社等
非生産拠点を合わせた目標を設定して取り組んでいます。

2010年度はボイラー燃料転換や高効率機器の導入を進め, 原
単位は目標を達成しました。CO₂排出量は生産量が回復したこと
により, 目標を上回る47,800t(対前年比 1,500t増)となりました。

今後も引き続き改善に取り組んでいきます。

<省エネ実施事例>

- ・燃焼炉の熱風漏れ改善
- ・燃焼装置空燃比の適正化
- ・コンプレッサーのインバーター化
- ・高効率モーターへの置換
- ・乾燥炉の小型化
- ・変圧器休日停止(待機電力削減)

● 改正省エネ法への対応

2010年4月より企業全体としてエネルギー量の把握や報告が義務付けられることになりました。

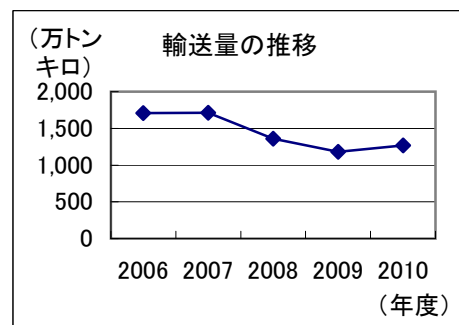
西川ゴム工業はエネルギー使用量が20,600kl(原油換算値)で特定事業者指定され, 事業者全体での
定期報告書・中長期計画書の作成などの対応を行いました。

● 物流改善

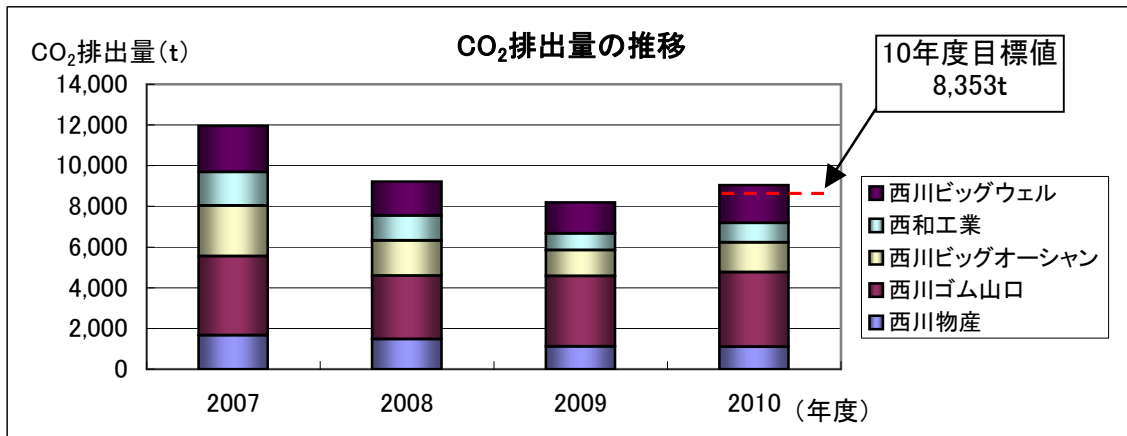
2006年4月1日から全ての荷主企業に省エネ対策が
求められるようになりました。西川ゴム工業の年間輸送
量は受注量の回復により, 1268万トンキロと前年に比
べ増加となりました。

引き続き, 年間輸送量の改善のため, 積載効率の向
上, 工場間輸送の削減, 臨時便の削減等に取り組ま
す。

※ 特定荷主(年間輸送量が3000万トンキロ(輸送重量×輸送距
離)以上)は, 委託輸送に係るエネルギー使用状況等の定期
報告等が必要。



● グループ会社のCO₂排出量推移



グループ各社も2008年度より西川ゴム工業と歩調を合わせた省エネ活動をしています。

2010年度は受注量の回復により目標を上回る9,044tとなりました。

CO₂換算係数は、下記の値を使用しました。

電力: 0.555kgCO₂/kWh

A重油: 2.71kgCO₂/L

LPG: 3.00kgCO₂/kg

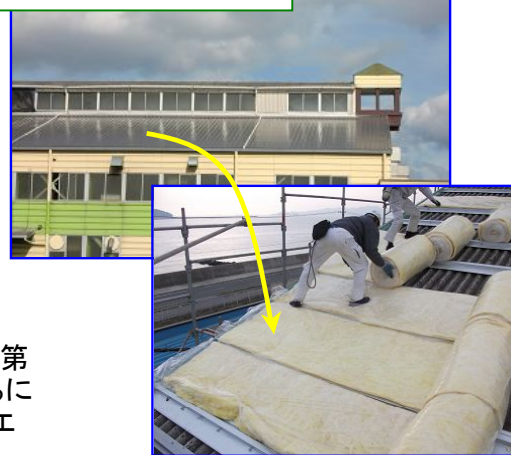
出典: 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧 (環境省)

● グループ会社の省エネ活動事例 【西川ゴム山口: 工場建屋の暑熱対策】

第2工場東側天窗 熱気排気装置10台取付
工事完了: 2010.09.12



第1工場屋根 断熱2重屋根
工事完了: 2010.12.29



西川ゴム山口では、第2工場に熱気排気装置を取り付け、夏場の室温の上昇を防ぐ対策を行いました。また、第1工場では屋根を断熱2重屋根に変更しました。これらにより室温の上昇を防ぎ、スポットクーラーの削減等、省エネになりました。

【北米 NISCO (Nishikawa Cooper LLC): 乾燥炉の小型化による省エネ】

NISCO BREMEN工場では、大型塗装ロボットとコンベア式塗料乾燥システムを撤去し、小型のより効率の良い塗布・乾燥システムを導入、大幅な省エネを実現しました。

環境コンプライアンス

● PCB管理

西川ゴム工業では35台の高濃度PCBを含むトランス・コンデンサ等を廃棄物として保管しています。高濃度PCB廃棄物の処理が2012年度から始まる予定です。すべての処理が終わるまで、適切な保管管理を続けていきます。

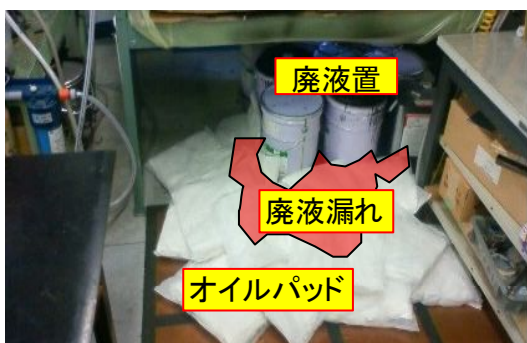


● アスベスト対応

飛散性の高いアスベストはありませんが、過去にはアスベストを含む建材が使われているため、アスベスト使用箇所を調査・特定し、環境債務として計上しました。今後、計画的に適切な取替・廃棄処理を行っていきます。

● 緊急事態対応訓練

天災などで緊急事態が発生した場合に備え、流出被害を最小限に抑えるための対応訓練を定期的に行っています。各部門で起こりうる事故を想定して緊急事態対応手順書を作成し、それに従って訓練を実施し、万が一の事態に備えています。



● 不法投棄廃棄物の処理

広島県安芸高田市の山中に西川ゴム工業で製造された可能性の高いスポンジ押出品が不法投棄されているのが発見されました。連絡を受け、直ちに引取りと適正な処理を行うと共に、安芸高田市へ撤去完了の報告を行いました。

20年以上経過したものと思われ、不法投棄された経緯・原因は明らかにすることができませんでした。

新たに不法投棄が発生することがないように、社内・関係会社・協力企業に周知徹底しました。



環境負荷物質の管理・低減

● 環境関連法規制に基づく環境負荷物質(SOC※1)管理システムの構築

欧州のELV指令※2, RoHS指令※3, REACH規則※4, 法規制やお客様からの要求をふまえ、西川ゴム工業では使用を規制する環境負荷物質(SOC)リスト(NSE0001;環境負荷物質の管理規定)を制定し、以下のような体制を構築して、SOCの管理・削減にグローバルで取り組んでいます。

※1 :SOC(Substances Of Concern)

※2 :ELV(End of Life Vehicles)指令

自動車のリサイクル指令のことで、廃自動車指令とも呼ばれています。自動車廃棄物の削減とこれらが環境へ与える影響を軽減するために廃棄物の利用やリサイクルを進めることなどが目的です。乗用車、商用車でPb(鉛), Cd(カドミウム), Hg(水銀), Cr⁶⁺(6価クロム)の使用が一部の例外を除き禁止されています。

※3 :RoHS(Restriction of Hazardous Substances)指令

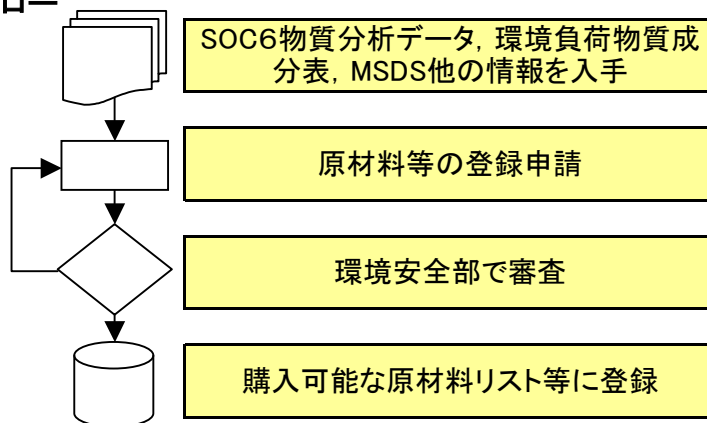
人や自然環境が有害物質によって悪影響を受けるのを防ぐため、特定の有害物質を電気・電子機器に使うことを禁止する規制。Pb(鉛), Cd(カドミウム), Hg(水銀), Cr⁶⁺(6価クロム), PBB(ポリ臭化ビフェニル), PBDE(ポリ臭化ジフェニルエーテル)の六つの有害物質の使用量が規制されています。

※4 :REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)規則

化学物質の登録, 安全性評価, 使用制限, 使用認可を生産者に義務付ける規制。1トン/年以上を生産し, 0.1重量%以上の有害化学物質(危険物質と定義されている)が含有されている場合, 「欧州化学庁」に届出をしなければならない。

西川ゴム工業の環境負荷物質管理のフロー

すべての原材料・購入部品の含有する環境負荷物質を確認・審査して登録し、使用を規制する化学物質をリスト化します。規制対象の環境負荷物質を設計段階から使用させない運用を行います。



西川ゴム工業の環境負荷物質管理体制の概要

業務	部門	実施内容
調達段階	購買部門	原材料/購入部品の環境負荷物質の管理 取引先の管理
法規適合確認	環境担当部門	得意先基準・環境関連法規等への適合確認 社内基準の制定 原材料の環境負荷物質含有の審査 得意先への連絡・報告
開発段階	開発部門	開発品に含有している化学物質情報の把握 使用禁止環境負荷物質を含有しない製品開発
設計段階	設計部門	使用禁止環境負荷物質を含有しない購入部品・材料での設計
生産段階	製造部門	使用禁止環境負荷物質非含有を確認済み品のみ使用
出荷段階	環境担当部門	出荷製品の使用禁止環境負荷物質非含有の確認

● 分析装置の導入

西川ゴム工業では、導入した蛍光X線分析装置を用いて、SOC6物質が調達する原材料・部品、また納入する製品に含有されていないことを確認しております。



据置型蛍光X線分析装置



携帯型蛍光X線分析装置

西川ゴム工業社内で分析を行った結果はデータベースに登録され、分析結果に関する情報が関連部署間で共有・管理できる体制をとっています。

● グリーン調達の推進

西川ゴム工業では、原材料・部品の調達にあたって、取引先の「品質・価格・納期」だけでなく、「環境取り組み」も加えて、総合的に評価しています。

グリーン調達依頼事項

- ・ISO14001外部認証もしくは簡易版の取得
- ・西川ゴム工業へ納入される原材料・部品の化学物質管理
- ・環境関連法の遵守
- ・環境取り組みの強化(CO₂排出量・廃棄物量の削減等)

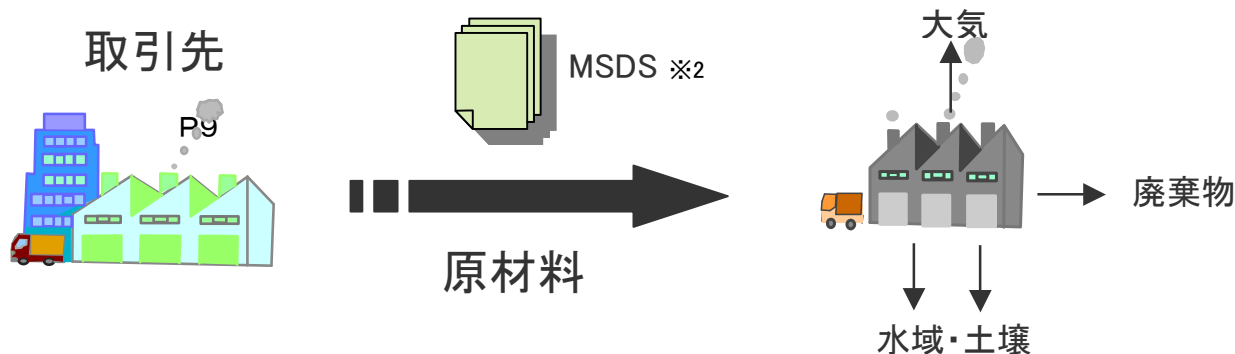
● 取引先体制管理

西川ゴム工業では環境負荷物質管理の重要性の周知や管理体制強化のため、取引先の監査及び支援を実施しています。

環境負荷物質の排出状況

● PRTR物質の削減

1999年に制定されたPRTR※1法(特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律)に指定された特定化学物質については、排出量を算出しております。
これら化学物質の使用量の削減対策は、製品設計の見直し、改善により取り組んでいます。



※1 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register: 環境汚染物質排出・移動登録制度

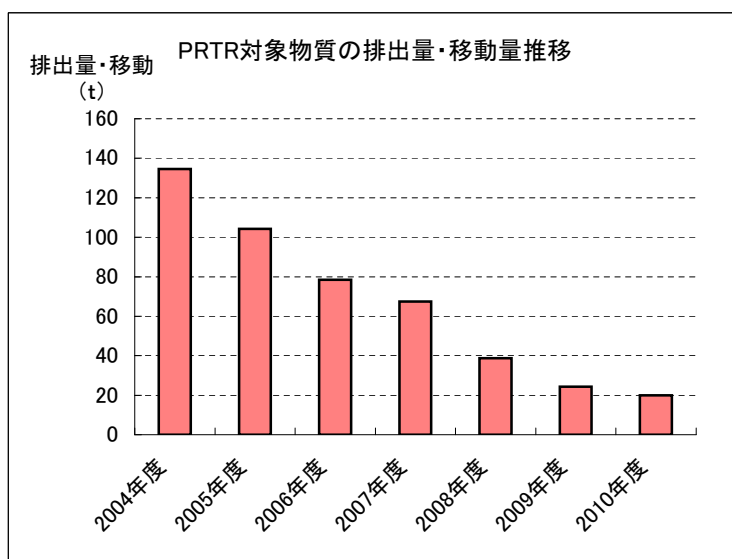
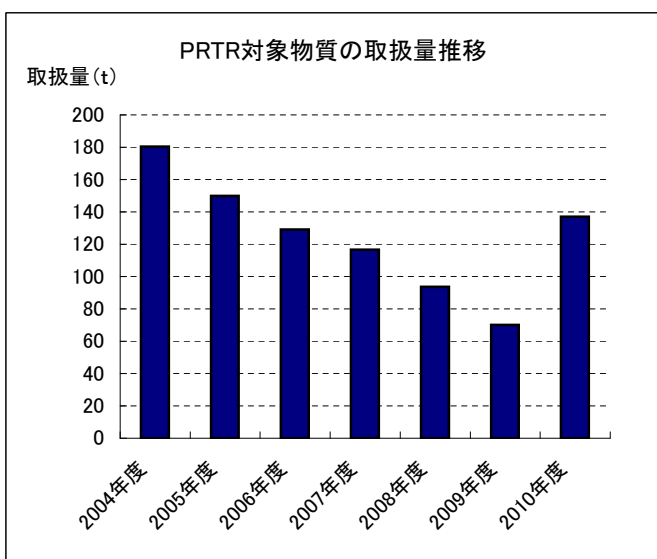
※2 MSDS: Material Safety Data Sheetの略 化学物質の性状及び取り扱いに関する情報を記載した化学物質安全性データシートのこと

● 2010年度環境負荷物質の移動・排出状況 (2010.4~2011.3)

<年間取扱量が1t以上のPRTR法該当化学物質で集計>

<単位:t>

政令番号	CAS No	指定化学物質	移動量	排出量	排出量	排出量
			廃棄物	大気	水質	土壌
42	96-45-7	2-イミダゾリジンチオン	0.16	0.00	0.00	0.00
74	1806-26-4	p-オクチルフェノール	0.06	0.00	0.00	0.00
80	1330-20-7	キシレン	0.02	0.32	0.00	0.00
220	-	ジメチルジチオカルバミン酸の水溶性塩	0.002	0.00	0.00	0.00
268	137-26-8	テトラメチルチウラムジスルフィド	0.30	0.00	0.00	0.00
300	108-88-3	トルエン	1.25	14.61	0.00	0.00
355	117-81-7	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	0.79	0.00	0.00	0.00
372	95-31-8	ビス(水素化牛脂)ジメチルアンモニウムクロリド	0.07	0.00	0.00	0.00
407	-	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミ	0.09	1.10	0.00	0.00
452	149-30-4	2-メルカプトンベンゾチアゾール	1.14	0.00	0.00	0.00
合計			3.88	16.04	0.00	0.00



2004年から2010年度のPRTR対象物質の取扱量・排出量・移動量の推移グラフです。

2010年4月に改正PRTR法が施行となり、第一種指定化学物質の数が354物質から462物質へと増えた影響で2010年度の取扱量は増加しました。このような状況の中、トルエン・キシレンといった有機溶剤の使用削減活動を進めた結果、2010年度の排出量・移動量は減少しました。

● 揮発性有機化合物(VOC※1)の排出量削減

日本ゴム工業会の作成したVOC排出量の削減自主規制計画に、西川ゴム工業も賛同しています。2010年度実績として、排出量を前年度より17%削減し、27.3tとなりました。現在、さらなる削減を目指して活動を継続しています。

※1 VOC: Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物)

対象とするVOC 17物質: アセトン, イソプロピルアルコール, キシレン, 酢酸ブチル, 酢酸エチル, シクロヘキサン, ジクロロメタン, テトラクロロエチレン, トリクロロエチレン, トリクロロエタン, トルエン, n-ヘキサン, メチルアルコール, メチルイソブチルケトン, メチルエチルケトン, ゴム揮発油, その他の炭化水素(炭素、水素のみで構成されるもの)

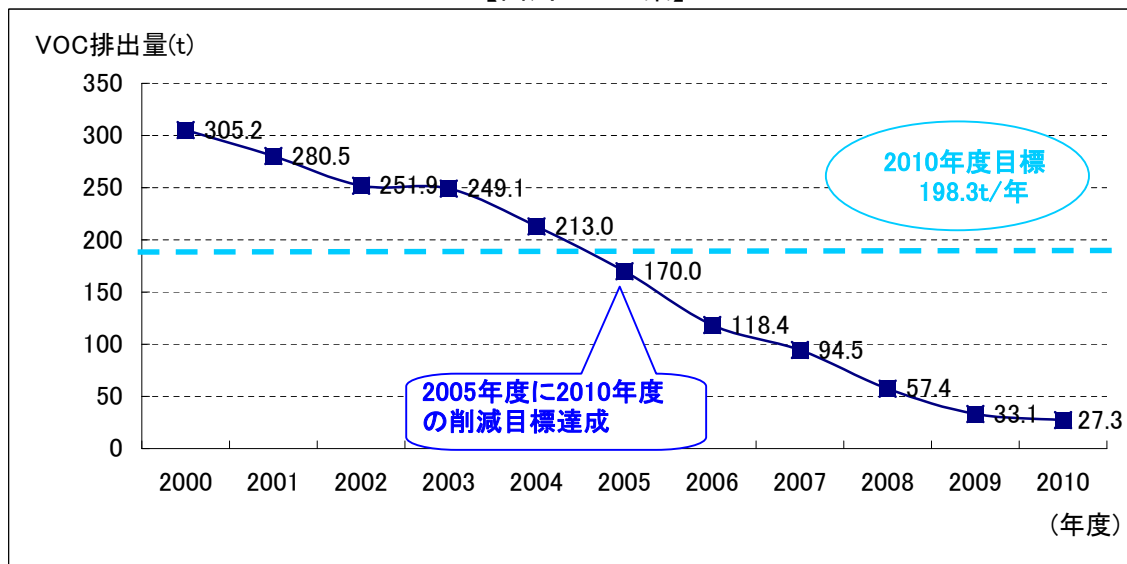
日本ゴム工業会のVOC排出削減に関する自主行動計画における削減目標

- ・2008年までに25%削減(2000年度ベース)
- ・2010年までに35%削減(2000年度ベース)

<年間1t以上の日本ゴム工業会が定めた代表VOC17物質で集計>

2010年度目標値: 排出量35%削減 $305.2(t/年) * 0.65 = 198.3(t/年)$

【西川ゴム工業】



VOCの排出量については早い時期から有機溶剤塗料の水性塗料への切替を行ってきた結果、日本ゴム工業会の自主目標(2010年度までに2000年度比35%削減)を2005年度に前倒して達成しました。

新規に開発する製品は水性塗料を使用するため、今後もVOC排出量は減少する見込みです。

2010年度の環境パフォーマンスのまとめ



算出方法

インプット	原材料・副資材	購入した原材料・副資材の量
	エネルギー投入量	工場・事業所における電力、油、ガスの消費量
	PRTR対象物質	工場・事業所におけるPRTR法の対象とされる化学物質
アウトプット	大気への排出	CO ₂ : 工場・事業所におけるエネルギー消費にともなうCO ₂ 排出量 (エネルギー消費量×CO ₂ 換算係数) NO _x , SO _x : 工場・事業所の排気口(ボイラー等)から排出される排ガス中の 物質濃度を測定した結果に基づき算出
	廃棄物の排出	2010年度に工場・事業所において埋立処分、単純焼却、リサイクルされた量
	排水量	水資源投入量と同値とした。(蒸発量は測定できないため、無視しました)

地域貢献活動・環境保全活動・コミュニケーション

● 吉田工場 地域貢献事例

2010年6月に、労働組合と会社の共催で工場周辺の清掃を実施しました。工場周辺、川原は、地域住民の散歩コースなどに利用されています。

- ①側溝の草取り、土砂の取り除き。
- ②川原、土手の空缶やゴミ拾い。



● 三原工場 地域貢献事例 アヤマの里

三原市沼田西町のエヒメアヤメ自生南限地帯は国の天然記念物であり、地域のみなさんや多くの方々が大切に保存活動をおこなっています。



沼田西地区エヒメアヤメ自生地の草刈りが、地元町内会と工業団地企業から約120人規模の参加で実施され、三原工場からも従業員が参加しました。

● 白木工場 地域貢献事例

【「クリーンウォーキング」の実施】

毎年秋に、労働組合と会社とでクリーンウォーキングを行っています。

- ①上三田駅周辺の清掃
- ②白木工場周辺～三田ニュータウンまでの道路・橋のごみ拾い
- ③三田ニュータウン内の清掃

● 「DBJ環境格付」 2年連続最高ランク取得

西川ゴム工業は、株式会社日本政策投資銀行(以下DBJと略)が実施する環境格付で、環境に配慮した経営が評価され、最高ランクの格付を2年連続で取得しました。2年連続は自動車部品メーカーでは初めてのことです。

認定証のロゴマーク下部にあるリーフの数が格付の高さを示しており、3枚のリーフが「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高の格付の証です。



● グループ会社の地域貢献事例

【タイ NTR(Nishikawa Tachaplalert Cooper Ltd.) : 地域との交流】

NTRでは地域の学校へ、教材・パソコン・奨学金の寄付を行いました



近隣住民の方にNTRの方針や情報を伝える会を開催しています

工場周辺の清掃活動を行い、地域への貢献と環境意識の向上を図っています。



【タイ NTR(Nishikawa Tachaplalert Cooper Ltd.) : タイ政府より表彰】

タイの工業省より緑の工場賞 (Green Industry) を受賞しました。
(1621社中 72社が受賞, NTRの所在地であるKORATでは2社が受賞)



【中国 SNS(上海西川密封件有限公司):地域の清掃】

SNSでは、工場の周辺の緑化に取り組み、また、清掃活動も行いました。



【中国 GNS(広州西川密封件有限公司):地域の清掃】



GNSでも、工場の周辺の緑化と清掃活動に取り組みました。

【西川物産:地域の清掃】

西川物産では、定期的に地域の清掃を行っており、工場周辺の道路・川をきれいにしました。



【西川ゴム山口:工業団地内の一斉清掃への参加】



西川ゴム山口では、工業団地内の一斉清掃に積極的に参加しています。工場周辺の道路・側溝がきれいになりました。

【西和工業:社外周辺の清掃活動】

西和工業では、会社周辺の清掃作業を行いました。





西川コム工業株式会社

発行：環境安全部
時期：2011年11月

TEL 082-237-9330
FAX 082-238-3983